

人との共生をはかる住まい

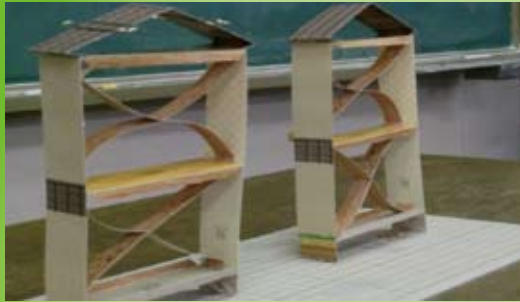
香川県立坂出商業高等学校

実施学年：2年

実施教科：家庭基礎

生徒数：168人（5学級）

実施時間数：8時間



住まいの安全対策



ひとり暮らしの住まい選び



地域活性化のために私たちができること

学習のねらい

1. 自分たちの生活を見つめなおすことを通して、住まいのあり方を考える。
2. 住まいの抱える様々な問題を多角的な視点からとらえ、健康で安全な住まいを得る力を養う。
3. 自分たちの力が地域づくりを担う活動力となり、互いに協力し合いながら地域を活性化させる力へと成長していくということに気付かせる。

学習活動

1. ひとり暮らしの住まい選び
2. 環境に配慮した住まい
3. 住まいの省エネルギー
4. 健康で安全な住まい
5. 住まいの安全対策
6. バリアフリーとユニバーサルデザイン
7. 協同の住まい方とまちづくり
8. 地域活性化のために私たちにできること

準備品

放射温度計・LED電球・白熱電球・電球型蛍光灯・ソケット・手回し防災ラジオ
 名古屋大学福和研究室開発振動実験ペーパークラフト教材『紙ぶるる』
 DVD『住まいとくらし』（東京書籍）・DVD『暮らしとゆたかな住生活』（映学社）
 DVD『かんかん森の木のはなし』（コレクティブハウスかんかん森居住者組合）

実施場所

教室、被服室（DVD視聴）

学習の流れ

| 場所・授業数 | 概要 | 活動の様子 | 反応 |
|------------------------|--|--|--|
| <p>教室</p> <p>1 時間</p> | <p>1. ひとり暮らしの住まい選び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「住まい選びで大切なこと」をアンケート形式で考えさせる。 ・住まい選びのチェックポイントをプリントで押さえて確認。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に張る作業が楽しかった様子。 ・人によって重要視するポイントがちがうことに気付く。 ・チェックポイントは大切なことばかりだという意見多数。 |
| <p>被服室</p> <p>1 時間</p> | <p>2. 環境に配慮した住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の気候の特徴を踏まえた上で、快適に過ごすための工夫を考察する。(DVD 視聴) ・エネルギーをあまり使わず、環境に配慮した住まいづくりの方法を考える。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的住まいの持つ良さ、生活の知恵や工夫に改めて気づいた様子。(エアコンに頼らない生活ができる事など) |
| <p>教室</p> <p>1 時間</p> | <p>3. 住まいの省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明として使用する電球の種類がちがいを比較。消費電力、価格、寿命などの特徴について実物を見せて学び、考える。 ・照明という身近な電化製品のエネルギー消費を学ぶことをきっかけにして、環境に配慮した住まいのあり方を考える。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・照明用電球の選び方によって、環境に配慮した省エネルギーを実現できることがわかった。 ・環境に配慮した住まい方があることに気付いた。 |
| <p>教室</p> <p>1 時間</p> | <p>4. 健康で安全な住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シックハウス症候群の原因と症状に対する認識をもつ。 ・シックハウス症候群の問題発生の背景を知り、引き起こさないための対策を考える。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・この問題について初めて認識した生徒が多かった。 ・便利な世の中の中の裏側に隠された身近な危険性を理解し、対策を考えることができた。 |

学習の流れ

| 場所・授業数 | 概要 | 活動の様子 | 反応 |
|------------------------|--|--|--|
| <p>教室</p> <p>1 時間</p> | <p>5. 住まいの安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児にとって家庭の中の危険な場所はどこか？ 生徒にチェックさせ、家庭内に潜む危険性を認識。 ・ 実験教材（筋交い）を用いて、住まいに対する地震の対策を学ぶ。教室の地震対策を確認 |  <p>『紙ぶるる』</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内事故の多さに驚いていた。 ・ 実験によって筋交いの効果を認識。 ・ 教室に施された地震対策にも気づき、身近なものとして受け止めることができた。 |
| <p>被服室</p> <p>1 時間</p> | <p>6. バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の体の機能の変化を確認。高齢者や身体の不自由な人にとって、危険な場所と危険対策を確認。（DVD 視聴） ・ バリアフリー・ユニバーサルデザインの意義を学ぶ。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族のために住まいの安全性を高めたいという意識が芽生えた。 ・ 自分の家にバリアフリー、ユニバーサルデザインが施されていたという気付きもあった。 |
| <p>被服室</p> <p>1 時間</p> | <p>7. 協同の住まい方とまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コレクティブハウスの間取り図を提示し、共有スペースと個人スペースを色分けさせて確認。 ・ 実際にコレクティブハウスに住む人たちの声を聞き（DVD 視聴）、家族以外の人間同士のつながりのあり方に気付く。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・ コレクティブハウスをはじめて知った生徒が多かったが、利点を知り、住んでみたいという前向きな意見が多かった。 |
| <p>被服室</p> <p>1 時間</p> | <p>8. 地域活性化のために私たちにできること（調べ学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校が運営する模擬株式会社「セキレ」を通して、地域活性化のためのアイデアを出す。 ・ 香川の特産物、うどん、うどん以外をアピールする。 ・ 島の暮らしやアートを紹介する。 |  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「セキレ」が地域活性化のために重要な役割を担っていることに気づき、自分たちが貢献できる力をもっていることを再認識した。 |

生徒の作品

香川の地域活性化のための活動への参加



(朝日新聞 2013年1月25日付)

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 住領域の授業実施前に住生活に関する20項目以上のアンケート調査を行い、生徒の認識について実態把握に努めた。
- 毎回授業の感想を書いてもらい、生徒が何を学んだのか確認しながら授業をすすめた。
- 初めての住居の授業の取り組みだったので、香川大学の妹尾先生の研究室に通い、アドバイスをもらえたことで、授業が深まった。
- 家庭基礎で8時間確保するのがやっとだったが、もう少し時間があれば授業に広がりが見られると思う。

児童・生徒の反応

- 住居の学習に対する生徒の関心は、教師が思っていた以上に高く、熱心に興味深く取り組んでいた。
- 絵本やDVDを用い、視覚的に理解しやすい形にした。
- 他の生徒の発表を聞くことで、様々な視点から考えることができた。
- 問題点に気づいた事で、自分たちの生活を見直し、自分たちの力で解決していかなければならないという当事者意識を持てたように思われる。

教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- 初めて住領域の授業に取り組んでみて、「持続可能な開発のための教育」(ESD)の観点からも、とても重要な領域であることを知ることができた。
- 地域活性化のために学校を挙げての取り組みが行われていて、日頃の教育活動が授業にも大きく影響することを、改めて認識できた。

その他

- 学校で生徒たちの住教育のために使える予算があることが大変ありがたかったです。これからもより充実した教育を目指すために、貴財団の事業を継続していただきたいと思います。